

ただいま卒業証書を手にした卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんの門出を心からお祝い致します。6年前に中学1年生として入学したときには、まだあどけなさが残る少年たちでしたが、今日、卒業生の皆さんを目の前にすると、この6年間ですっかり成長し逞しく立派な青年になったなと感じます。日々の学習やクラブ活動、様々な行事を通して成長してきたことを実感します。

卒業生の皆さんは、逗子開成中学に入学した6年前の2014年にはどのような出来事があったか覚えていませんか。国内の出来事としては、消費税の5%から8%への引き上げ、STAP細胞論文に関する捏造や改ざん騒動、海外では「イスラム国」の勢力拡大やウクライナ危機などがありました。そして、この年のノーベル平和賞を受賞したのは、パキスタンの17歳の少女で人権運動家であるマララ・ユスフザイさんでした。17歳での受賞はノーベル賞全部門を通じて最年少です。

私は6年前の入学式でこのマララさんについて話をしています。その内容について簡単に振り返ってみたいと思います。

マララさんは、2012年10月9日、スクールバスで下校途中、武装集団に銃撃され重傷を負いました。弾丸摘出手術を受け一命をとりとめたのですが、15歳の女子学生を狙い撃ちにしたテロ事件は世界中に大きな衝撃を与えました。犯行声明を出した反政府勢力パキスタン・タリバーン運動(TPP)は、教育の権利を求める女性の「反道徳的」活動への報復であるとテロ行為を正当化しています。

奇跡的に回復したマララさんは、2013年7月12日に国連本部で演説し、逗子開成の校章のもとになっている「ペンは剣よりも強し」という言葉を引用し教育の大切さを強く訴えました。その内容は次のようなものです。

「ペンが剣よりも強し」ということわざがあります。これは真実です。過激派は本とペンを恐れます。教育の力が彼らを恐れさせます。だから彼らは、毎日学校を破壊するのです。なぜなら、彼らは、私たちが自分たちの社会にもたらそうとした自由を、そして平等を恐れていたからです。そして彼らは、今もそれを恐れているからです。

教育には平和が欠かせません。世界の多くの場所では、特にパキスタンとアフガニスタンでは、テ

ロリズム、戦争、紛争のせいで子どもたちは学校に行けません。

私たちはすべての子どもたちの明るい未来のために、学校と教育を求めます。私たちは、「平和」と「すべての人に教育を」という目的地に到達するための旅を続けます。誰にも私たちを止めることはできません。私たちは、自分たちの権利のために声を上げ、私たちの声を通じて変化をもたらします。自分たちの言葉の力を、強さを信じましょう。私たちの言葉は世界を変えられるのです。

無学、貧困、そしてテロリズムと闘いましょう。本を手に取り、ペンを握りましょう。それが私たちにとってもっとも強力な武器なのです。

1人の子ども、1人の教師、1冊の本、そして1本のペン、それで世界を変えられます。教育こそがただ一つの解決策です。

「ペンは剣よりも強し」という言葉の意味をもう一度確認しましょう。「言論が人の心に訴える力は武力よりも強く、永続性があり広範囲に及ぶ」ということです。「ペン」を「教育」と置き換え考えることもできます。

世界を見渡すと本当に数多くの教育を受ける機会のない子供達があります。そんな中で平和な日本で生活している皆さんは、十分な教育を受けられる環境にいます。そして自分の夢を実現することができるチャンスにも恵まれています。入学式では中学高校の6年間でその環境を十分に生かし勉強して欲しいと話をしました。皆さんはこの環境を生かされたでしょうか。

学校に行くことが当たり前になっているので、このことを普段あまり意識することはなかったかも知れません。卒業を機会に、この環境を与えてくれた保護者の方や周囲の人たちへの感謝の気持ちを思い出してほしいと思います。そして、その気持ちを忘れずにこれからの生活や学習に励んでください。

さて、近年国際社会ではグローバル化が進む一方、自国第一主義が台頭し自分の国さえ良ければいいという考え方を露骨に打ち出している国もでてきました。また多様性を認め共生することが大事という考え方に対して、排他的な動きも世界のあちこちにあります。

しかし、現在世界で生じている「気候変動」「移民・難民」の問題、「貧困」や「テロ」の問題など、国単位で解決するのは困難です。今生じている「新型コロナウイルス」の問題などは、国際的な協力がなければ、解決は不可能です。

そして、インターネットや SNS などの発展で、世の中に発信される情報量がここ数年で飛躍的に増えています。その情報の中には根拠のない誹謗中傷やフェイクニュースなどが含まれており、情報の受け止め方や見極め方が大切になってきました。

皆さんは逗子開成で過ごした 6 年間の中で、このような時代に生きるための基礎となる力を育んできました。このような社会でこれから生きていく訳ですが、皆さんには、多様性の中でお互いを尊重し、根拠のない情報に振り回されず客観的に物事を考えることが出来るようになって欲しいと思います。

逗子開成の教育の原点は、校名の由来ともなっている「開物成務」にあります。これは“人間性を開拓・啓発し、人としての務めをなす。”という意味でした。この「開物成務」の精神に基づき、高い目標を掲げ、困難にあっても挫けることなく、自分の未来を切り開いていってください。そして、自分自身の幸福を追い求めるだけでなく、社会に貢献できるような、人に何かを与えられるような人生を歩むことを期待しています。逗子開成の 6 年間で学んだことや体験したことは、皆さんの大きな力になると信じています。

最後になりましたが、卒業生の保護者の皆様。本日はご息のご卒業、本当におめでとうございます。また、今日まで本校の教育活動にご協力、ご理解をいただきありがとうございました。

今回の卒業式が、新型コロナウイルスの影響で短縮した形になり、卒業を祝う会も残念ながら中止となりました。しかし、教職員一同、卒業生に対するお祝いの気持ちに変わりはありません。保護者の皆様にも是非卒業生の晴れ姿を見て頂きたいという思いもあり、このような形式で卒業式を実施したことをご理解ください。

それでは、267 名の卒業生の皆さん一人ひとりの旅立ちを祝うとともに、これからの健闘と活躍を祈り式辞と致します。

卒業おめでとう。